



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	B
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
5/17 (月)	+ 1,200	▲ 4,900	▲ 3,700	国庫短期証券 発行・償還(3M) 国債発行・償還(個人向け)	補完供給 CP等買入 + 200 ▲ 600	国債買入 + 13,500	米: アトランタ連銀オンラインイベントに クラリダFRB副議長らが参加(18日まで)
5/18 (火)	+ 1,000	▲ 2,000	▲ 1,000	国債発行 (物価運動)			日: GDP速報値(1Q) 欧: ユーロ圏GDP(1Q)
5/19 (水)	トン	+ 7,000	+ 7,000			CP等買入 + 4,000	米: FOMC議事要旨(4月27・28日開催分) 欧: ECB金融安定報告書 欧: ユーロ圏CPI(4月)
5/20 (木)	トン	▲ 39,000	▲ 39,000	国庫短期証券 発行・償還(1Y) 国債発行(5年) 国債償還 (変動利付)			日: 貿易収支(4月)
5/21 (金)	▲ 1,000	+ 9,000	+ 8,000				日: CPI(4月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初526兆8,500億円から始まった。その後、11日には国債買入オペなどで528兆2,400億円まで増加したが、12日には源泉税揚げや10年債の発行等により、526兆300億円まで減少し、4月積み期最終日の14日は525兆9,300億円での着地となった。

無担保コールON物加重平均金利は、週初△0.016%から始まり、11日~13日は△0.016%~△0.014%と堅調な地合いで推移した。4月積み期最終日にかかる三日積みみの14日は、マクロ加算残高の調整需要から、ビッドサイドの一部が調達に積極的な姿勢を見せ、同金利は前営業日比+0.003%の△0.011%まで上昇した。ターム物は、5月積み期スタートの1W~2W物を中心に、主に△0.010%~△0.005%の水準で出合いが見られた。

来週の主な予定は、国内で18日にGDP速報値(1Q)の公表、19日にCPI(4月)の公表、20日に貿易収支(4月)の公表などがあり、海外では17~18日に米アトランタ連銀のオンラインイベント(クラリダFRB副議長らが参加)や、19日にFOMC議事要旨(4月27・28日開催分)、ECB金融安定報告書、ユーロ圏CPI(4月)の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.070 ~ 0.001
1M	△0.040 ~ 0.030
2M	△0.010 ~ 0.040
3M	0.000 ~ 0.100
6M	0.000 ~ 0.130

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.00
CP 3M	△0.060 ~ 0.00

<レボ>

連休明け7日受渡しの足許GC取引は、△0.09%~△0.08%で取引され、短国の発行が重なった10日受渡しでは△0.08%台が出合いの中心となった。今週は短国買入オペや10年債等の発行があったものの、概ね△0.09%~△0.08%で取引された。SC取引は2年409~424回債、5年136~147回債、10年331~362回債、20年164~176回債、30年59~70回債、40年9~13回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約3,800億円で、週間償還額(約3,300億円)を上回った。入札発行市場は、建設業や輸送用機器業で大型案件がみられたものの、全体的には発行が少なく落ち着いたマーケットとなった。発行残高は先週末の23兆7,179億円から、13日時点で23兆6,661億円に減少した。14日に、CP等買入オペが予定通り4,000億円でオフアされた。結果は、按分レート△0.014%・平均落札レート△0.011%と前回(按分レート△0.024%・平均落札レート△0.017%)比で上昇した。

来週の週間償還額は、約3,400億円程度となっている。発行市場は、5・10日発行が予定されるため、取引は活況が見込まれる。発行レートは、投資家の運用ニーズが強く、マイナスから0%近辺の出合いが中心と思われるが、日銀オペ等の対象銘柄や希少銘柄では、今週同様強いマイナスレートでの出合いを予想する。

<TDB>

5月14日入札の3M993回債(8月16日償還)の入札は、最高落札利回り△0.0982%(前回債△0.1011%)、平均落札利回り△0.0998%(同△0.1043%)となった。